三井記念病院麻酔科専門研修プログラム 2027

1. 専門医制度の理念と専門医の使命

① 麻酔科専門医制度の理念

麻酔科専門医制度は，周術期の患者の生体管理を中心としながら，救急医療や集中治療における生体管理，種々の疾病および手術を起因とする疼痛・緩和医療などの領域において，患者の命を守り，安全で快適な医療を提供できる麻酔科専門医を育成することで，国民の健康・福祉の増進に貢献する．

② 麻酔科専門医の使命

麻酔科学とは，人間が生存し続けるために必要な呼吸器・循環器等の諸条件を整え，生体の侵襲行為である手術が可能なように管理する生体管理医学である．麻酔科専門医は，国民が安心して手術を受けられるように，手術中の麻酔管理のみならず，術前・術中・術後の患者の全身状態を良好に維持・管理するために細心の注意を払って診療を行う，患者の安全の最後の砦となる全身管理のスペシャリストである．同時に，関連分野である集中治療や救急医療の分野でも，生体管理学の知識と患者の全身管理の技能を生かし，国民のニーズに応じた高度医療を安全に提供する役割を担う．

（以上　日本麻酔科学会HPより）

2. 専門研修プログラムの概要と特徴

本専門研修プログラムは，専攻医が整備指針に定められた麻酔科研修の到達目標を達成できる専攻医教育を提供し，地域のそして我が国の麻酔診療を維持すべく十分な知識・技術・態度を備えた麻酔科専門医を育成する．

本研修プログラムでは，心臓血管麻酔や重症心疾患合併非心臓手術の麻酔，透析患者の麻酔に特化した研修を特徴とし，研修終了後は，一般的な急性期病院の手術室のみならず，重症患者の周術期管理を行う施設での就業も可能となる．

3. 専門研修プログラムの運営方針

- １年目は，専門研修基幹施設で研修を行う．
- ２年目に埼玉県立小児医療センターにおいて半年間の研修を行い，小児麻酔を含む症例を経験する．
- ３年目に榊原記念病院において半年間の研修を行い，心臓麻酔を含む症例を経験する．
- ３年目に自治医科大学附属さいたま医療センター，東京ベイ・浦安市川医療センター，亀田総合病院のいずれかにおいて半年間の研修を行い，集中治療を経験す

る.

- ４年目は，専門研修基幹施設において重症患者の麻酔を中心に経験する.
- 研修内容・進行状況に配慮して，プログラムに所属する全ての専攻医が経験目標に必要な特殊麻酔症例数を達成できるようローテーションを構築する.

2027 年度入職者用　三井記念病院麻酔科専攻医プログラム

研修病院派遣予定表

	2027 年度		2028 年度		2029 年度		2030 年度	
	上期	下期	上期	下期	上期	下期	上期	下期
A	三井	三井	三井	埼玉小児	榊原記念	自治埼玉＊	三井	三井
B	三井	三井	埼玉小児	三井	自治埼玉＊	榊原記念	三井	三井

専攻医は一年に２人ずつ採用

埼玉小児：埼玉県立小児医療センターにて小児麻酔研修

自治埼玉＊：自治医科大学附属さいたま医療センター，東京ベイ・浦安市川医療センター，亀田総合病院のいずれかを選択し，集中治療研修

榊原記念：榊原記念病院にて心臓麻酔研修

をそれぞれ６ヶ月間研修する.

派遣中の勤務体制，当直，勤務時間等は派遣先の定める勤務規定に従う.

派遣中の給与は，派遣先の給与規定に基づき，派遣先から支払われる.

週間予定表

三井記念病院の例

	月	火	水	木	金	土	日
午前	手術室	手術室	手術室	休み	手術室	手術室（隔週）	休み
午後	手術室	手術室	手術室	休み	手術室	休み	休み

当直は原則として1年目から副当直，4年目から正当直を行う.

詳細は院内で定める麻酔科勤務規定に従う.

勉強会/抄読会と症例検討会（年12回以上）

三井記念病院の例

三井記念病院の麻酔科では，月に1度程度の割合で抄読会や勉強会を実施している．その論文は，現在の周術期管理に影響を受けると思われる国際的なガイドラインやレビューを対象としている．しかし，先進的や重要度の高いと思われる一般的な論文であれば，取り扱うこともある.

また、周術期管理セミナーとして、超音波ガイド下中心静脈穿刺セミナー（年1回)、困難気道管理（DAM）セミナー（年１回)、新生児蘇生法（NCPR)、鎮静セミナー、その時のトピックスを取り上げた外部講師の招聘を含むセミナー（年数回）を開催している。

症例検討は，指導医が必要とした場合や専攻医の希望を指導医が認めた場合，さらに麻酔科以外の部署から必要性を求められた場合に行っている．

これらの勉強会/抄読会や症例検討会は，必要に応じて適切な関連診療科や院外関係者と合同で行っている．

医療安全や医療倫理，院内感染に関する院内講習会が定期的に開催されており，受講を義務としている．

学会や研究会への参加

三井記念病院の例

日本麻酔科学会の行う学術集会（年次総会または地方会）への年1回以上の参加を原則とする．専門性の高い学会や研究会に関しても，参加や発表を奨励している．

学術発表に関しては，2年次までに症例報告程度の学会発表を指導している．研究や論文発表に関しては，専攻医の希望に基づいて開始され，指導医による計画や倫理的問題の解決，結果の解析，先行研究の知識，論文校正などの指導が行われている．年3回程度の予演会/学術発表会を部門内で行っており，病院全体では年１回の学術発表会を行っている．

カンファレンス

三井記念病院の例

カンファレンスは，毎日夕方に実施している．原則として，司会は翌日のスーパーバイザーが行い，プレゼンテーションは翌日の症例担当者が行う．

4. <u>研修施設の指導体制と前年度麻酔科管理症例数</u>

本研修プログラム全体における前年度合計麻酔科管理症例数：61283症例

本研修プログラム全体における総指導医数：85

①　専門研修基幹施設

三井記念病院

研修プログラム統括責任者：横塚基

専門研修指導医：横塚基　　（麻酔，心臓麻酔）

大野長良　（麻酔，心臓麻酔）

竹内純平　（麻酔，心臓麻酔）

大槻達道　（麻酔，心臓麻酔）

佐藤瑞穂　（麻酔，蘇生）
今井恵理哉（麻酔，心臓麻酔，集中治療）
田中真佑美（麻酔）
松永渉　　（麻酔，心臓麻酔，産科麻酔）
山本麻里　（麻酔）
滑川元希　（麻酔，心臓麻酔，集中治療）

認定病院番号：68
特徴：東京都，区中央部医療圏の高度急性期機能・急性期機能を担うことに特化した急性期病院．CCUネットワークや急性大動脈ネットワークを通じて，重篤な緊急患者の受け入れを積極的に行っている．また，地域医療支援病院・災害拠点病院として地域医療の中核を担っている．成人の心臓麻酔・透析患者・重症患者を中心に幅広い症例を経験できる．
麻酔科管理症例：4981症例（2025年度）

②　専門研修連携施設A

１）榊原記念病院
研修実施責任者：清水淳
専門研修指導医：清水淳　　（麻酔一般，心臓麻酔）
一瀬麻紀　（麻酔一般、救急医療）
古市結富子（麻酔一般、心臓麻酔、集中治療）

認定病院番号：1441
特徴：急性期医療を中心とした，あらゆる年齢層を対象とした循環器疾患の専門施設である．小児先天性心疾患を含む心臓血管手術全般および最先端のカテーテル治療の麻酔管理、術後管理を中心とした集中治療管理を豊富に経験することができる．また他科・他職種間の垣根が低く，カンファランスや実地臨床を通じて幅広い知識を得ることができる．地域医療支援病院である．
麻酔科管理症例数：2532 症例（2025 年度）

２）埼玉県立小児医療センター
研修実施責任者：蔵谷紀文
専門研修指導医：蔵谷紀文　　（麻酔・小児麻酔）
濱屋和泉　　（麻酔・小児麻酔）
古賀洋安　　（麻酔・小児麻酔）
伊佐田哲朗　（麻酔・小児麻酔）

小嶋大樹　　（麻酔・小児麻酔）
大橋智　　（麻酔・小児麻酔）
駒崎真矢　　（麻酔・小児麻酔）
高田美沙　　（麻酔・小児麻酔）
坂口雄一　　（麻酔・小児麻酔）
鴻池利枝　　（麻酔・小児麻酔）
藤本由貴　　（麻酔・小児麻酔）

認定病院番号：399
特徴：研修者の到達目標に応じて、小児麻酔・周術期管理の研修が可能。小児鏡視下手術や新生児手術、心血管手術のハイボリュームセンターです。小児がん拠点病院であり、総合周産期母子医療センター、小児救命救急センター、移植センター（肝移植）が併設されています。小児集中治療の研修も可能です(PICU14, HCU20, NICU30, GCU48)。さいたま新都心駅と北与野駅からペデストリアンデッキで直接アクセス可能です。
麻酔科管理症例数：3908例（2025年度）

３）自治医科大学附属さいたま医療センター
研修実施責任者：飯塚悠祐
専門研修指導医：飯塚悠祐　（麻酔，集中治療）
大塚祐史　（心臓麻酔、救急医療）
松野由以　（一般麻酔、ペインクリニック）
佐藤和香子（一般麻酔）
瀧澤裕　　（緩和ケア、ペインクリニック）
宮澤恵果　（小児麻酔、心臓麻酔）
深野賢太朗（一般麻酔、集中治療、救急医療）
諏訪　晧士　（一般麻酔、心臓麻酔）
斉藤　玲那　（一般麻酔）

認定病院番号：961
特徴：手術室では,臓器移植を除く全科の症例を扱っています.特に心臓大血管手術,呼吸器外科手術を数多く経験出来ます.また,重篤な併存症を有する患者の麻酔管理を行う機会も豊富です.
麻酔科・集中治療部として運営しているため,30 床を有する Closed ICU にて,幅広い疾患の患者管理を経験することも可能です.ICU では特に機械的補助循環

（ECMO,IMPELLA,IABP,CRRT など）の管理,重症呼吸不全の呼吸管理を,数多く経験出来ます.
麻酔科管理症例数：6297症例（2025年度）

４）亀田総合病院
研修実施責任者：植田健一
専門研修指導医：植田健一（麻酔）
吉沼裕美（麻酔，ペインクリニック）
室内 健志（麻酔）
中澤遥　（麻酔）
林淑朗　（麻酔，集中治療）
河野宏之（麻酔）
柘植雅嗣（麻酔）
竹原由佳（麻酔）
劉丹　　（麻酔）
加納美咲（麻酔）
藤井真理映（麻酔）
荻野仁史（麻酔）
藤本 萌子（麻酔，ペインクリニック）
植田咏佐（麻酔）

認定病院番号：367
特徴：千葉県南房総地区において中心的な役割を果たす施設．早くから米国式研修医システムを取り入れ，研修医を育てることを得意とする病院施設である．外科においては，心臓手術，呼吸器外科，食道外科をはじめとする高度医療から一般外科まで幅広く手術症例があり，年間 1 万例以上の手術件数を誇る．ペインクリニック認定施設でもあり，他に，当院にて集中治療，救急医療のローテーションも可能となっている．集中治療科は，クローズド・システムの内科・外科混合の ICU を管理し，24 時間 365 日シフト制で集中治療専門医の指導のもと診療にあたる．
麻酔科管理症例数：8917 症例（2025 年度）

５）東京ベイ・浦安市川医療センター
研修実施責任者：小野寺英貴
専門研修指導医：小野寺英貴（麻酔）
深津健　　（麻酔）
日下部良臣（麻酔）

石橋智子　（麻酔）

認定病院番号：1612
特徴：高齢者医療・救急医療・小児医療・周産期医療を診療の重点とし、地域医療に根差した救急拠点病院
麻酔科管理症例数：3558症例（2025年度）

６）前橋赤十字病院
研修実施責任者：柴田正幸
専門研修指導医：伊佐之孝（麻酔一般）
柴田正幸（麻酔一般，心臓血管麻酔）
齊藤博之（麻酔一般、心臓血管麻酔）
佐藤友信（麻酔一般）
菊池悠希（麻酔一般，心臓血管麻酔）
谷里菜　（麻酔一般）

認定病院番号：142
特徴：群馬県で唯一の高度救命救急センターの指定病院を受けており，2009年2月からはドクターヘリ基地施設となっている．地域医療支援病院であり，県内全域を治療対象とした第３次救急医療機関でもあり，最新の医療施設を備え，高度の医療技術を有する専任の医療スタッフにより３６５日２４時間体制で患者を受け入れている．第３次救急医療を含む緊急手術症例が豊富であり貴重な経験を積むことができる．集中治療科等のローテーションも可能である．
麻酔科管理症例数：4794症例（2025年度）

７）日本赤十字社医療センター
研修実施責任者：諏訪　潤子
専門研修指導医：諏訪　潤子（麻酔）
細川　麻衣子（麻酔、集中治療）
浅野　哲　（麻酔、産科麻酔）
林　南穂子（麻酔、集中治療）
大塚　尚実（集中治療、救急、麻酔）
松岡　未紗（麻酔）

認定病院番号：76

特徴：がん診療、小児・周産期医療、救命救急及び災害救護を担う、地域の中核施設。十分な麻酔症例と集中治療症例を研鑽することができます。 分娩時の疼痛緩和のための硬膜外麻酔も数多く行っています。
麻酔科管理症例数：4479症例（2025年度）

８）順天堂大学医学部附属順天堂医院
研修実施責任者：川越いづみ
専門研修指導医：川越いづみ（呼吸器外科麻酔・区域麻酔）
石川晴士（胸部外科麻酔・術前外来）
赤澤年正（麻酔全般・心臓血管外科麻酔）
長島道生（集中治療）
竹内和世（麻酔全般・小児麻酔）
工藤　治（麻酔全般）
岩田志保子（麻酔全般・心臓血管外科麻酔）
掛水真帆（麻酔全般・心臓血管外科麻酔）
尾堂公彦（麻酔全般・心臓血管外科麻酔）
河邉千佳（麻酔全般・小児麻酔）
安藤　望（麻酔全般・小児麻酔）
阿部まり子（麻酔全般・小児麻酔）
福田征孝（麻酔全般）
豊田有加里（麻酔全般）
櫻谷初奈（麻酔全般）
林　愛　（麻酔全般）
藤野隆史（麻酔全般）
岡田尚子（麻酔全般・産科麻酔）
門倉ゆみ子（麻酔全般・産科麻酔）
千葉聡子（ペインクリニック）
山田恵子（ペインクリニック）
原　厚子（ペインクリニック）
濱岡早枝子（ペインクリニック）
武田泰子（ペインクリニック）
太田　浄（ペインクリニック）
林田眞和（心臓血管外科麻酔）
西村欣也（小児麻酔）
井関雅子（ペインクリニック、緩和ケア）
三高千惠子（集中治療）

近江禎子（麻酔全般・産科麻酔）

麻酔科認定病院番号　12
特徴：各診療科の手術数が多く最先端医療の導入にも積極的であるため、豊富な麻酔症例を経験でき、各サブスペシャリティーの指導陣も充実している。ペインクリニック、緩和ケア、集中治療、産科麻酔の長期・短期のローテーションも可能である。多職種で構成される包括的な術前外来も整備され、麻酔安全面へ大きく寄与している。
麻酔科管理症例数：12304症例（2025年度）

９）日本医科大学武蔵小杉病院
研修実施責任者：杉田　慎二
専門研修指導医：杉田　慎二（麻酔、集中治療）
川瀬　創（麻酔、緩和ケア）
今井　裕隆（麻酔、集中治療）
細井　章広（麻酔、産科麻酔、（無痛分娩））
山岡　卓司（麻酔、ペインクリニック、小児麻酔）
相澤　武明（麻酔、神経ブロック）

認定病院番号：276
特徴： 2021年9月に新病院になった大学病院で、周産期母子医療センター、救命救急センター、災害拠点病院です。重症症例を含めた幅広い症例を経験することが可能です。小児症例、帝王切開術症例を豊富に経験することが可能です。無痛分娩を行っており、産科麻酔をより学ぶことができます。ペインクリニックや緩和ケアの外来もあり、手術室でインターベンショナル治療を行える環境となっています。
※ ペインクリニックは2026年5月現在、院内対応のみとなっています。
麻酔科管理症例数：3,711症例（2025年度）

１０）千葉西総合病院
研修実施責任者：關根 一人（麻酔科主任部長）
専門研修指導医：關根 一人（麻酔、心臓麻酔）
酒井 大輔（麻酔、心臓麻酔）
本間 裕之（麻酔、心臓麻酔）
大橋 麻美（麻酔、心臓麻酔）
佐川 明子（麻酔）
廣瀬 彩名（麻酔、心臓麻酔）
岩澤 由梨香（麻酔、心臓麻酔）

滝 理恵（麻酔、心臓麻酔）
水品 由佳（麻酔、心臓麻酔）
榮井　彩乃（麻酔）

認定病院番号：1516
特徴：急性期に特化し、各科の症例数が豊富で特に心臓血管外科症例が多い病院である。またロボット手術などの高度最先端手術も数多く行っている。
麻酔科管理症例数：5082症例（2025年度）

１１）柏崎総合医療センター
研修実施責任者：倉田豊
専門研修指導医：倉田豊（麻酔）

認定病院番号：1585
特徴：市内で唯一の学会認定施設です.消化器外科,整形外科,産婦人科の症例が特に多い病院です.
麻酔科管理症例数：1200 症例（2025 年度）

5. 募集定員

2名

6. 専攻医の採用と問い合わせ先

① 採用方法

専攻医に応募する者は，日本専門医機構に定められた方法により，期限までに志望の研修プログラムに応募する.

② 問い合わせ先

本研修プログラムへの問い合わせは，三井記念病院HPまたは，電話，e-mail，郵送のいずれの方法でも可能である.

社会福祉法人三井記念病院　教育研修部　森下千尋
東京都千代田区神田和泉町1番地
TEL 03-3862-9111
E-mail　kyoikukensyu@mitsuihosp.or.jp
当院HP　https://www.mitsuihosp.or.jp

7. 麻酔科医資格取得のために研修中に修めるべき知識・技能・態度について

① 専門研修で得られる成果（アウトカム）

麻酔科領域の専門医を目指す専攻医は，4年間の専門研修を修了することで，安全で質の高い周術期医療およびその関連分野の診療を実践し，国民の健康と福祉の増進に寄与することができるようになる．具体的には，専攻医は専門研修を通じて下記の4つの資質を修得した医師となる．

１）十分な麻酔科領域，および麻酔科関連領域の専門知識と技能
２）臨床現場における，適切な臨床的判断能力,報告と協力能力，問題解決能力
３）医の倫理に配慮し，診療を行う上での適切な態度，習慣
４）常に進歩する医療・医学に則して，生涯を通じて研鑽を継続する向上心

② 麻酔科専門研修の到達目標

国民に安全な周術期医療を提供できる能力を十分に備えるために，研修期間中に別途資料**「麻酔科専攻医研修マニュアル」**に定められた専門知識，専門技能，学問的姿勢，医師としての倫理性と社会性に関する到達目標を達成する．

③ 麻酔科専門研修の経験目標

研修期間中に専門医としての十分な知識，技能，態度を備えるために，別途資料**「麻酔科専攻医研修マニュアル」**に定められた経験すべき疾患・病態，経験すべき診療・検査，経験すべき麻酔症例，学術活動の経験目標を達成する．

このうちの経験症例に関して，原則として研修プログラム外の施設での経験症例は算定できないが，地域医療の維持など特別の目的がある場合に限り，研修プログラム管理委員会が認めた認定病院において卒後臨床研修期間に経験した症例のうち，専門研修指導医が指導した症例に限っては，専門研修の経験症例数として数えることができる．

8. 専門研修方法

別途資料**「麻酔科専攻医研修マニュアル」**に定められた１）臨床現場での学習，２）臨床現場を離れた学習，３）自己学習により，専門医としてふさわしい水準の知識，技能，態度を修得する．

9. 専門研修中の年次毎の知識・技能・態度の修練プロセス

専攻医は研修カリキュラムに沿って，下記のように専門研修の年次毎の知識・技能・態度の到達目標を達成する．

専門研修１年目

手術麻酔に必要な基本的な手技と専門知識を修得し，胸部外科手術，脳神経外科手術，帝王切開手術を含むASA1〜3度の患者の通常の定時手術に対して，指導医の指導のもと，安全に周術期管理を行うことができる．

専門研修２年目

1年目で修得した技能や知識をさらに発展させ，全身状態の悪い症例を含むASA1〜3度の定時および緊急手術の周術期管理を，指導医の指導のもと，安全に行うことができる．集中治療を経験し，さまざまな特殊症例を含む周術期管理を指導医のもと，安全に行うことができる．

専門研修3年目

2年目までに習得した技能や知識を習熟させ，さまざまな特殊症例の周術期管理を指導医のもと，安全に行うことができる．全身状態の悪いASA4度以上の患者の周術期管理や心臓血管外科手術を含むASA1〜3度の定時および緊急手術の周術期管理を，指導医の指導のもと，安全に行うことができる．小児手術の周術期管理を経験し，さまざまな特殊症例の周術期管理を指導医のもと，安全に行うことができる．

専門研修4年目

3年目の経験をさらに発展させ，さまざまな症例の周術期管理を安全に行うことができる．基本的にトラブルのない症例は一人で周術期管理ができるが，難易度の高い症例などは適切に麻酔科上級医や関連する他の専門医に相談をして，患者の安全を守ることができる判断を含む総合的な能力を習得する．

10. 専門研修の評価（自己評価と他者評価）

① 形成的評価

- 研修実績記録：専攻医は毎研修年次末に，専攻医研修実績記録フォーマットを用いて自らの研修実績を記録する．研修実績記録は各施設の専門研修指導医に渡される．
- 専門研修指導医による評価とフィードバック：研修実績記録に基づき，専門研修指導医は各専攻医の年次ごとの知識・技能・適切な態度の修得状況を形成的評価し，研修実績および到達度評価表，指導記録フォーマットによるフィードバックを行う．研修プログラム管理委員会は，各施設における全専攻医の評価を年次ごとに集計し，専攻医の次年次以降の研修内容に反映させる．

② 総括的評価

研修プログラム管理委員会において，専門研修４年次の最終月に，専攻医研修実績フォーマット，研修実績および到達度評価表，指導記録フォーマットをもとに，研修カリキュラム

に示されている評価項目と評価基準に基づいて，各専攻医が専門医にふさわしい①専門知識，②専門技能，③医師として備えるべき学問的姿勢，倫理性，社会性，適性等を修得したかを総合的に評価し，専門研修プログラムを修了するのに相応しい水準に達しているかを判定する．

11. 専門研修プログラムの修了要件

各専攻医が研修カリキュラムに定めた到達目標，経験すべき症例数を達成し，知識，技能，態度が専門医にふさわしい水準にあるかどうかが修了要件である．各施設の研修実施責任者が集まる研修プログラム管理委員会において，研修期間中に行われた形成的評価，総括的評価を元に修了判定が行われる．

12. 専攻医による専門研修指導医および研修プログラムに対する評価

専攻医は，毎年次末に専門研修指導医および研修プログラムに対する評価を行い，研修プログラム管理委員会に提出する．評価を行ったことで，専攻医が不利益を被らないように，研修プログラム統括責任者は，専攻医個人を特定できないような配慮を行う義務がある．

研修プログラム統括管理者は，この評価に基づいて，すべての所属する専攻医に対する適切な研修を担保するために，自律的に研修プログラムの改善を行う義務を有する．

13. 専門研修の休止・中断，研修プログラムの移動

① 専門研修の休止

- 専攻医本人の申し出に基づき，研修プログラム管理委員会が判断を行う．
- 出産あるいは疾病などに伴う６ヶ月以内の休止は１回までは研修期間に含まれる．
- 妊娠・出産・育児・介護・長期療養・留学・大学院進学など正当な理由がある場合は，連続して 2 年迄休止を認めることとする．休止期間は研修期間に含まれない．研修プログラムの休止回数に制限はなく，休止期間が連続して 2 年を越えていなければ，それまでの研修期間はすべて認められ，通算して 4 年の研修期間を満たせばプログラムを修了したものとみなす．
- ２年を越えて研修プログラムを休止した場合は，それまでの研修期間は認められない．

② 専門研修の中断

- 専攻医が専門研修を中断する場合は，研修プログラム管理委員会を通じて日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会へ通知をする．
- 専門研修の中断については，専攻医が臨床研修を継続することが困難であると判断した場合，研修プログラム管理委員会から専攻医に対し専門研修の中断を勧告できる．

③ 研修プログラムの移動

- 専攻医は, やむを得ない場合, 研修期間中に研修プログラムを移動することができる. その際は移動元，移動先双方の研修プログラム管理委員会を通じて，日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会の承認を得る必要がある．麻酔科領域研修委員会は移動をしても当該専攻医が到達目標の達成が見込まれる場合にのみ移動を認める.

14. 地域医療への対応

本研修プログラムの連携施設には，地域医療支援病院である榊原記念病院および前橋赤十字病院が連携施設として入っている．医療施設や医療従事者を含む医療資源の選択の少ない地域においても都心では経験できない郊外での高度救命救急と周術期管理の連携を学び，適切な知識と技量に裏付けられた麻酔診療の研修は重要であると考えられるため，当プログラムに参加する専攻医は，地域医療への一定の期間の麻酔研修を行い，当該地域さらには災害時における高度救命救急のニーズを理解することが望ましい.